

長野県知事

村 井 仁 様

## 提 言 書

「夜間瀬川・角間川流域における  
総合的な治水・利水対策について」

平成 19 年(2007 年)8 月 29 日

角 間 川 流 域 協 議 会

長野県知事

村 井 仁 様

平成 19 年(2007 年)8 月 29 日  
角 間 川 流 域 協 議 会

## 提 言 書

### 夜間瀬川・角間川流域における総合的な治水・利水対策について

平成 13 年 2 月の前長野県知事の脱ダム宣言によりダム建設計画が中断した。平成 13 年 6 月から「長野県治水・利水ダム等検討委員会」が開催され 2 年間、角間川における総合的な治水・利水対策について審議され、平成 15 年 6 月にダムによらない治水・利水対策が知事へ答申された。この答申を受けて県は、同年 7 月 現行のダム計画を中止してダムによらない治水・利水対策の方針を決定した。この中で流域協議会の設置を決定し、平成 16 年 3 月会員 22 名による第 1 回角間川流域協議会が開催された。

これまで、平成 19 年 8 月の 16 回(会員数 35 名)まで、長野県が示した案を中心に討議、検討を行ってきた。

この中で角間ダムについては、賛否両論の意見が出された。本協議会としては、双方の意見を併記し会の提言とする。

なお、治水利水の対策について様々な意見が出されたが、この会の共通した認識として次のことを申し添える。

「夜間瀬川流域の住民は、従来から志賀高原の水の恩恵を等しく受けてきた。このため、志賀高原に植林を続けて緑を増やし、志賀高原の緑の復活に努力してもらいたい。また、志賀高原にある大小の池の活用についても検討してもらいたい。」

## 1 . 治水対策に対する意見

### 1 . 1 . 県の方針による河川改修原案

#### 【パラペットについて】

- 1 . パラペットは、安全面で不安である。また景観上悪い。
- 2 . パラペットは、夜間瀬川・角間川の実状に合った対策ではない。

#### 【河床掘削について】

- 1 . 河床掘削は温泉への影響が確認できなければ実施すべきでない。  
十分な検討が必要である
- 2 . 河床掘削した場合に、温泉に影響があるかどうかという調査を実施する必要がある。

#### 【河川改修原案全般について】

- 1 . 県の方針に従って進めることが最良である。
- 2 . 県の方針は基本的には賛成である。
- 3 . 景観に配慮したパラペット、河床掘削の組合せで良い。
- 4 . 計画策定にあたり、実際の洪水を教訓とすべきであり、1/100 確率の安全度にこだわるべきではない。
- 5 . 画一的な手法にこだわらず、流域の特性にあった対策が必要である。

### 1 . 2 . 流域全体の治水対策

#### 【継続工事・既存施設について】

- 1 . 地すべり防止工事、砂防、治山工事、偏流対策、堤防及び護岸強化の継続、早期完成が必要である。
- 2 . 現在実施中の、横湯川の砂防工事、落合地区の地すべり防止工事を早急に完成させる必要がある。
- 3 . 従来のも複断面式流路工による河川改修で、治水安全度は高まっているが、下流域の堤防強度に不安があるため、点検・強化の必要がある。
- 4 . 事業の実施にあたっては、十分な国の財政支援を要望する。

#### 【流下能力確保について】

- 1 . 流下能力確保のため、河床内の堆積土砂、樹木の除去が必要である。
- 2 . 橋脚の多い橋は、早期に架け替えるべきである。
- 3 . 高社大橋から笹川合流部の堤防工事が必要である。

#### 【森林保水力について】

1. 治山を含め、緑のダムを作ることが必要である。
2. 集中豪雨では、緑のダムを過大評価すべきでない。
3. 森林保水力の再検討が必要である。

#### 【治水対策全般について】

1. 夜間瀬川と千曲川合流部の水害対策について、具体的に示す必要がある。
2. 洪水対策に対して、関係機関との事前の打合せを行うなどして、緊急時に各機関が連携して機能するシステム作りが必要である。
3. 国土交通省で定めた基本高水をよく検討して、治水対策の方向を出すべきである。
4. 基本高水の見直しが必要である。
5. 横手山にアメダスを設置し降雨状況の把握に努める。  
降雨時は群馬県側へ、旧寒沢堰用水を放流することを検討する必要がある。
6. 千曲川の流下能力不足区間解消のため、関係機関に働きかける必要がある。
7. 避難経路、自主的機器監視、危機管理などソフト対策も重要である。
8. 角間川上流の堆積土除去。屏風堰堤下流部の護岸嵩上げが必要である。
9. 安全性を考えると、洪水時の流水をカットすることが必要である。

### 1.3. 治水対策としての角間ダムについて

#### 【ダム建設が必要】

1. ダム建設を望む。賛成である。ダムを排除せず検討する必要がある。
2. 59協定、ダム建設基本協定を尊重し、ダムの建設が必要である。
3. 1/100確率の安全度に対応するには、河川改修、砂防事業を併せたダム建設が必要である。
4. ダム建設は自然破壊を出来る限り小さくし、自然保護と人との共存を大切にし、どううまく活用するかが重要である。

#### 【ダム建設は不要】

1. ダム建設は、様々な問題があるため反対である。
2. 治水については、「ダムは必要でない」ことを共通認識して検討することが大切である。
3. ダム建設は、税金による莫大な金額を必要とする。  
住民が理解できる、全体の意見が反映されるシステムが必要である。
4. 角間川上流の砂防堰堤を生かすための堆積土除去が必要。ダム建設は反対である。

## 2. 利水対策に対する意見

### 2.1. 県の方針による利水対策案

#### 【利水対策案について】

1. ダムなしを基本とする利水対策には賛成である。
2. 県の方針には賛成であるが、実現に向けた取り組み方に疑問を感じる。  
県の方針が空文化している。
3. ダムなしの利水対策への追求姿勢、具体的努力が放置されている。
4. 県の方針は、「金銭的支援は行うが、あくまで協力者、助言者」という姿勢が伺える。
5. 地下水は水質が悪く、水道水、農業用水としても必要量が確保できない状況である。地下水を主とした利水対策には反対である。
6. 県から示されている角間砂防堰堤の利用は、砂防堰堤の性格上問題がある。
7. ダムなしでの利水対策案は、具体性に欠けている。

### 2.2. 利水対策全般

#### 【水需要量について】

1. 水需要、必要量については、現状を十分考慮して、誠意ある姿勢で見直す必要がある。また水道政策についても再考の必要がある。
2. 中野市、山ノ内町における現況の水源水量、新規開発の出来る水源水量を、真剣に調査する必要がある。
3. 最近のデータに基づいた維持流量について、公表する必要がある。

#### 【既存施設の活用について】

1. 既存施設の活用と、新規水源確保に努める。また、水道水増量のため上流域の琵琶池などの増水対策を検討する必要がある。
2. 循環利用、浄化、節水、雨水活用等を総合的、積極的に追求する必要がある。

#### 【その他】

1. ダムなしで、角間川の水を水道水源に活用することを追求し、農業用水についてもダムなしで広域的な対応、対策を期待する。
2. 千曲川、夜間瀬川下流域の伏流水、表流水を利用して緩速濾過技術による水道事業を検討する必要がある。
3. 安曇野地域の地下水保全に向けた取り組み、豊丘村で実施した硝酸性窒素を対象とした地下水保全対策モデル事業を当地域でも実施願う。

4. ダムを含む貯水対策について、検討の余地がないか市民レベルでの検討をしてはどうか。

## 2.3. 利水対策としての角間ダムについて

### 【ダム建設が必要】

1. ダム建設による利水対策が必要である。ダム建設案を再検討する必要がある。
2. 治水利水検討委員会の答申では、「利水ダムも考慮する」となっていた経緯もある。ダムを排除せず検討する必要がある。
3. 飲料水の確保、不特定用水の安定量維持のため、ダム建設を排除せず検討する必要がある。
4. 59協定書を尊重し、ダム建設に向けた検討をすべきである。

### 【ダム建設は不要】

1. 現状のままでよい。ダム建設は反対である。

### 3 . その他

- 1 . 県下9河川については、それぞれの河川によって条件、状況が違う。  
一つのものにあてはめ、全てダムを造らないことを前提として進めていくことには疑問を感じる。
- 2 . ダムにおける、いろいろな条件（水道水量、不特定容量）を数字的に見直しして、ダムが必要か、ダム以外の方法で対応できるのか、考えることが必要である。
- 3 . ダムについては、マイナス、デメリットの部分が殆ど検討されていない。  
この協議会は、ダムなしの場合の提案に対して、意見を出し合うための会である。  
そこには不十分な面、問題のある部分もあった訳である。しかし、「だからダム」と置き換える議論は、おかしい構図である。  
ダムは大きな力を持っているが、自然に対して悪影響も大きい。また、ダムそのものが危険だと言われている。このことは視野にいれておく必要がある。
- 4 . ダムという声が大きくなっているならば、ダムを含め、一般住民も参加して議論をやり直してもよいのではないかと思う。
- 5 . ダムを含めた考えで検討し、ダムなし、ダムあり、の柔軟な討議をして初めてよい案が出ると考える。そういうものがないことは残念である。